

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																				
専門学校札幌ビジュアルアート		平成11年01月27日	末吉 良任		〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																				
学校法人北海道安達学園		平成11年11月28日	安達 保敏		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(ヴォーカル専攻)			平成6年文部科学省告示第八十四号	-																			
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に付け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																								
認定年月日	平成26年 3月 31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
160人の内数		7人	0人	1人	5人	6人																			
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																				
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) EYS-STYLE 他			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数														
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
■卒業生数		7	人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■就職希望者数		2	人	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
■就職率		100	%																						
■卒業者に占める就職者の割合		29	%																						
■その他		プロミュージシャンデビューになることを目的とした専攻となります。																							
(平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																									
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者14名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者14名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的な理由			■中退率 0 %																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有			奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/vocal/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。
 - ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
斉藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。		
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)		
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針 学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に係りの深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (公表方法:ホームページ 公表時期:令和1年9月中) URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf	
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係	
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する	
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法 情報提供方法:ホームページ URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/	

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1 年 前 期	34	2	△		○	○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1 年 前 期	34	2	△		○	○			○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	1 年 前 期	68	4			○	○					○
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1 年 前 期	34	2			○	○			△		○
	○		パフォーマンス技術4・5	ヴォーカルレッスン	1 年 前 期	68	4			○	○					○
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1 年 前 期	68	4			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術8	音楽理論	1 年 前 期	34	2			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術9・10	音楽制作	1 年 前 期	68	4			○	○			○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1 年 前 期	34	2			○	○					○
	○		作品制作2	音楽制作実習	1 年 前 期	34	2			○	○					○
合計					10科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	ヴォーカルレッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8	音楽理論	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術9・10	音楽制作	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年後期	32	2			○	○			○	
合計					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年前期	34	2	△		○	○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○			○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	2年前期	68	4			○	○				○	
	○		パフォーマンス技術3・4	ヴォーカルレッスン	2年前期	68	4			○	○				○	
	○		パフォーマンス技術5・6・7	バンドアンサンブル	2年前期	136	8			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術8	副科レッスン	2年前期	34	2			○	○			△	○	
	○		パフォーマンス技術9	音楽理論	2年前期	34	2			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	2年前期	34	2			○	○			○		
	○		作品制作1	楽曲研究	2年前期	34	2			○	○				○	
合計					9科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年後期	32	2	△		○	○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○			○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	2年後期	64	4			○	○				○	
	○		パフォーマンス技術3・4	ヴォーカルレッスン	2年後期	64	4			○	○				○	
	○		パフォーマンス技術5・6・7	バンドアンサンブル	2年後期	128	8			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術8	副科レッスン	2年後期	32	2			○	○			△	○	
	○		パフォーマンス技術9	音楽理論	2年後期	32	2			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	2年後期	32	2			○	○			○		
	○		作品制作1	楽曲研究	2年後期	32	2			○	○				○	
合計					9科目	448単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(ギター専攻)	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																							
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に着け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																				
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人の内数	7人	0人	2人	5人	7人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																						
■卒業生数	2	人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																								
■就職希望者数	0	人	①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																								
■就職者数	0	人	②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																								
■就職率	0	%	③その他(民間検定等)																								
■卒業者に占める就職者の割合	0	%	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																								
■その他	プロミュージシャンデビューになることを目的とした専攻となります。																										
(平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)																											
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者6名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者6名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等			■中退率 0 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有			奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度																							
	■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/guitar/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 - ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。
 日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針			
学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	
(1) 教育理念・目標		1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか	
(2) 学校運営		2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
(3) 教育活動		3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8 教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10 資格取得の指導体制はあるか	
(4) 学修成果		4-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2 資格取得率の向上が図られているか 4-3 退学率の低減が図られているか 4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
(5) 学生支援		5-1 就職関する体制は整備されているか 5-2 学生相談に関する体制は整備されているか 5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7 保護者と適切に連携しているか 5-8 卒業生への支援体制はあるか	
(6) 教育環境		6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2 学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3 防災に対する体制は整備されているか	
(7) 学生の受入れ募集		7-1 学生募集活動は、適正に行われているか 7-2 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3 入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4 学納金は妥当なものとなっているか	
(8) 財務		8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	
(9) 法令等の遵守		9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2 個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	
(10) 社会貢献・地域貢献		10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
(11) 国際交流		11-1 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 学校関係者評価結果の活用状況			
音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエーターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエーター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。			
(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
令和1年10月31日現在			
	名前	所属	任期
	菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新
	松倉 大樹	株式会社ききた Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新
	本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新
種別			
			企業等委員
			企業等委員
			企業等委員(姉妹校卒業生)
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等			

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中) URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf	
5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係	
(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する	
(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 情報提供方法 情報提供方法: ホームページ URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/	

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年前期	34	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	楽器レッスン	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年前期	68	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8・9	JAM (アンサンブル)	1年前期	68	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年前期	34	2			○	○			○	
合計					10科目	476単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	楽器レッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術8・9	JAM (アンサンブル)	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年後期	32	2			○	○			○	
合計					10科目	448単位時間 (28単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	楽器レッスン	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・8・9	バンドアンサンブル	2年前期	136	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	副科レッスン	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		作品制作1	音楽理論・音楽制作	2年前期	68	4			○	○		○	△	
	○		作品制作2	楽曲制作	2年前期	34	2			○	○			○	
合計					8科目		476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	楽器レッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・8・9	バンドアンサンブル	2年後期	128	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	副科レッスン	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作1	音楽理論・音楽制作	2年後期	64	4			○	○		○	△	
	○		作品制作2	楽曲制作	2年後期	32	2			○	○			○	
合計					8科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(ベース専攻)	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																					
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に着け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																								
認定年月日	平成26年 3月 31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
160人の内数		2人	0人	2人	5人	7人																			
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																				
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 プロダクションのオーディションにより、入所する。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数														
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
■卒業生数 2 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職率 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 0 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■その他 プロミュージシャンデビューになることを目的とした専攻となります。			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																						
(平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)																									
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者3名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者3名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等			■中退率 0 %																					
■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有			奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度																					
■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/bass/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿 令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法:ホームページ 公表時期:令和1年9月中)
URL:https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
情報提供方法:ホームページ URL:<https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年前期	34	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	楽器レッスン	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年前期	68	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8・9	JAM (アンサンブル)	1年前期	68	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年前期	34	2			○	○			○	
合計					10科目	476単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	楽器レッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8・9	JAM (アンサンブル)	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年後期	32	2			○	○			○	
合計					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	楽器レッスン	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・8・9	バンドアンサンブル	2年前期	136	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	副科レッスン	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		作品制作1	音楽理論・音楽制作	2年前期	68	4			○	○		○	△	
	○		作品制作2	楽曲制作	2年前期	34	2			○	○			○	
合計					8科目	476単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	楽器レッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・8・9	バンドアンサンブル	2年後期	128	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	副科レッスン	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作1	音楽理論・音楽制作	2年後期	64	4			○	○		○	△	
	○		作品制作2	楽曲制作	2年後期	32	2			○	○			○	
合計					8科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成11年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(ドラム専攻)	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																							
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に付け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																				
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人の内数	6人	0人	2人	5人	7人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 プロダクションのオーディションにより、に入所する。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																						
■卒業生数 2 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																								
■就職希望者数 0 人			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																								
■就職率 0 %			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																								
■卒業者に占める就職者の割合 0 %			③その他(民間検定等)																								
■その他 プロミュージシャンデビューになることを目的とした専攻となります。			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																								
(平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)																											
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者4名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者4名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等			■中退率 0 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有			奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/dram/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 - ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリ-ニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿 令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中)
URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1 年前期	34	2	△		○	○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1 年前期	34	2	△		○	○			○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	1 年前期	68	4			○	○					○
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1 年前期	34	2			○	○			△		○
	○		パフォーマンス技術4・5	楽器レッスン	1 年前期	68	4			○	○					○
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1 年前期	68	4			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術8・9	JAM (アンサンブル)	1 年前期	68	4			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	1 年前期	34	2			○	○			○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1 年前期	34	2			○	○					○
	○		作品制作2	音楽制作実習	1 年前期	34	2			○	○					○
合計					10科目											476単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	楽器レッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8・9	JAM (アンサンブル)	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年後期	32	2			○	○			○	
合計					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○			○	△
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	2年前期	68	4			○	○				○
	○		パフォーマンス技術3・4	楽器レッスン	2年前期	68	4			○	○				○
	○		パフォーマンス技術5・6・8・9	バンドアンサンブル	2年前期	136	8			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術10	副科レッスン	2年前期	34	2			○	○				○
	○		作品制作1	音楽理論・音楽制作	2年前期	68	4			○	○			○	△
	○		作品制作2	楽曲制作	2年前期	34	2			○	○				○
合計			8科目		476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ギター専攻・ベース専攻・ドラム専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽器レッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	楽器レッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・8・9	バンドアンサンブル	2年後期	128	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	副科レッスン	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作1	音楽理論・音楽制作	2年後期	64	4			○	○		○	△	
	○		作品制作2	楽曲制作	2年後期	32	2			○	○			○	
合計					8科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌ビジュアル アーツ	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学 園	平成11年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(PA&レーコーディングエンジニア専攻)	平成6年文部科学省 告示第八十四号	-																			
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に付け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技																
	2年 昼間							1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
160人の内数	12人	0人	2人	5人	7人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏 季:7月25日～8月29日 ■冬 季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級 条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との 連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) スペースプロジェクト、アートプラザ 他		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就 職に対する正しい認識を指導			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サウンドレコーディ ング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>1名</td> <td>1名 Bランク</td> </tr> <tr> <td>ProTools技術認定 試験</td> <td>③</td> <td>1名</td> <td>1名 Aランク</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	サウンドレコーディ ング技術認定試験	③	1名	1名 Bランク	ProTools技術認定 試験	③	1名	1名 Aランク				
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																		
	サウンドレコーディ ング技術認定試験	③		1名	1名 Bランク																		
ProTools技術認定 試験	③	1名	1名 Aランク																				
■卒業生数 : 5 人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■就職希望者数 : 5 人		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
■就職者数 : 4 人																							
■就職率 : 80 %																							
■卒業者に占める就職者の割合 : 80 %																							
■その他																							
(平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名		■中退率 11 %		平成30年5月1日時点において、在学者18名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者16名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の本理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 健康的な理由、経済的な理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有		奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制 度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無		※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科の ホームページ URL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/sound-engineer/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリ-ニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏、ライブハウスSPICE所属のPAエンジニア大和田敦司氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 平成30年11月中)

URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科PA&レコーディングエンジニア専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	業界マネジメント	1年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	REC実習	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		ライブ技術3・4	PA実習	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		制作技術1	楽器概論	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術2	ローディー	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		制作技術3	イベント企画	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術1・2	PT編集	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		メディア技術3・4	ライブ実習	1年前期	68	4			○	○		○	△	
合計					10科目		476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科PA&レコーディングエンジニア専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	業界マネジメント	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○			○	△
	○		ライブ技術1・2	REC実習	1年後期	64	4			○	○				○
	○		ライブ技術3・4	PA実習	1年後期	64	4			○	○				○
	○		制作技術1	楽器概論	1年後期	32	2			○	○				○
	○		制作技術2	ローディー	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		制作技術3	イベント企画	1年後期	32	2			○	○				○
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	1年後期	32	2			○	○				○
	○		メディア技術1・2	PT編集	1年後期	64	4			○	○				○
	○		メディア技術3・4	ライブ実習	1年後期	64	4			○	○			○	△
合計					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科PA&レコーディングエンジニア専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時事ジャーナル	キャリア演習	2年前期	34	2	△		○	○		○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	PA実習	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		ライブ技術3・4	ライブ実習	2年前期	68	4			○	○		○	△	
	○		制作技術1	PA実習	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術2	イベント企画	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術3	業界マネジメント	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		作品制作1・2	REC実習	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		作品制作3・4	PT編集	2年前期	68	4			○	○			○	
合計				10科目						476単位時間(28単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科PA&レコーディングエンジニア専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時事ジャーナル	キャリア演習	2年後期	32	2	△		○	○		○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	PA実習	2年後期	64	4			○	○				○
	○		ライブ技術3・4	ライブ実習	2年後期	64	4			○	○		○	△	
	○		制作技術1	PA実習	2年後期	32	2			○	○				○
	○		制作技術2	イベント企画	2年後期	32	2			○	○				○
	○		制作技術3	業界マネジメント	2年後期	32	2			○	○				○
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	2年後期	32	2			○	○				○
	○		作品制作1・2	REC実習	2年後期	64	4			○	○				○
	○		作品制作3・4	PT編集	2年後期	64	4			○	○				○
合計															
					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(PA&照明専攻)	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																							
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に着け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人の内数	11人	0人	1人	5人	6人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 村上音楽事務所、TSUBAKI 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 3 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成30年5月1日時点において、在学者9名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者7名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等		■中退率 22 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度0人 給付者なし																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/promotion-management/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
斉藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリ-ニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きした Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 平成30年11月中)

URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科PA&照明専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	業界マネジメント	1年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	照明実習	1年前期	68	4			○	○		○		
	○		ライブ技術3・4	PA実習	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		制作技術1	楽器概論	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		制作技術2	ローディー	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		制作技術3	イベント企画	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術1	レーベル研究	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術2	パブリシティ制作	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術3・4	ライブ実習	1年前期	68	4			○	○		○	△	
合計					11科目	476単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科PA&照明専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	業界マネジメント	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	照明実習	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		ライブ技術3・4	照明実習	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		制作技術1	楽器概論	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		制作技術2	ローディー	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		制作技術3	イベント企画	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術1	レーベル研究	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術2	パブリシティ制作	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術3・4	ライブ実習	1年後期	64	4			○	○		○	△	
合計					11科目		446単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科PA&照明専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時事ジャーナル	キャリア演習	2年前期	34	2	△		○	○		○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	照明実習	2年前期	68	4			○	○		○		
	○		ライブ技術3・4	ライブ実習	2年前期	68	4			○	○		○	△	
	○		制作技術1・2	メディアMIX	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		制作技術3	PA実習	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術4	動画編集	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術1	レーベル研究	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術2	業界マネジメント	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術3	イベント企画	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術4	アーティストプロモーション	2年前期	34	2			○	○		○	△	
合計					11科目		476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		2学年の学期区分	前期
		2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科PA&照明専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			時事ジャーナル	メディア制作	2 年 後 期	32	2	△		○	○		○		
○			ホームルーム 業界研究	ホームルーム業界研究	2 年 後 期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術 1・2	照明実習	2 年 後 期	64	4			○	○		○		
	○		ライブ技術 3・4	ライブ実習	2 年 後 期	64	4			○	○		○	△	
	○		制作技術1・ 2	メディアMIX	2 年 後 期	64	4			○	○			○	
	○		制作技術3	PA実習	2 年 後 期	32	2			○	○			○	
	○		制作技術4	動画編集	2 年 後 期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術 1	レーベル研究	2 年 後 期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術 2	業界マネジメント	2 年 後 期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術 3	イベント企画	2 年 後 期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術 4	アーティストプロモーション	2 年 後 期	32	2			○	○		○	△	
合計				11科目	448単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(ミュージッククリエイター専攻)		平成6年文部科学省告示第八十四号	-		
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に付け、併せて社会人として教養やマナーの習得。						
認定年月日	平成26年 3月 31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
	2年 昼間						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人の内数	10人	0人	1人	5人	6人		
学期制度	■前期：4月1日～9月24日 ■後期：9月25日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等		
長期休み	■学年始：4月1日～4月2日 ■夏季：7月25日～8月29日 ■冬季：12月19日～1月10日 ■学年末：2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動：無		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)		
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				資格・検定名 種 受験者数 合格者数		
	■卒業生数 4 人 ■就職希望者数 1 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 0 %						
	■その他 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者10名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者10名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等			■中退率 0 %			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付：給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績数について任意記載						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/music-creator/						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
斉藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ(平成31年4月予定)、サウンドクルー(令和元年5月予定)、村上音楽事務所(令和元年7月予定)、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント(令和元年7月予定)、音楽処(令和元年9月予定)、東芸エンタテインメント(令和元年11月予定)との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に係りの深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOne を導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和1年9月中)

URL:https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法:ホームページ URL:<https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科ミュージッククリエイター専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年前期	34	2	△		○	○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○			○	△	○
	○		音楽制作技術1	音楽制作実習	1年前期	34	2			○	○				○	
	○		音楽制作技術3	REC実習	1年前期	68	4			○	○				○	
	○		音楽制作技術4	PT編集	1年前期	68	4			○	○				○	
	○		パフォーマンス技術1・2	音楽制作	1年前期	68	4			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術3・4	DTM	1年前期	68	4			○	○			○		
	○		パフォーマンス技術5	副科	1年前期	34	2			○	○				○	
	○		パフォーマンス技術6	セルフプロデュース	1年前期	34	2			○	○				○	
	○		音楽基礎知識1	音楽理論	1年前期	34	2			○	○			○		
合計					10科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ミュージッククリエイター専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		音楽制作技術1	音楽制作実習	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		音楽制作技術3	REC実習	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		音楽制作技術4	PT編集	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術1・2	音楽制作	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術3・4	DTM	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術5	副科	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6	セルフプロデュース	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		音楽基礎知識1	音楽理論	1年後期	32	2			○	○		○		
合計					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ミュージッククリエイター専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		音楽制作技術2	副科レッスン	2年前期	34	2			○	○		△	○	
	○		音楽制作技術3	REC (レコーディング) ・PT編集	2年前期	136	8			○	○				○
	○		音楽制作技術5	楽曲研究	2年前期	34	2			○	○				○
	○		音楽制作技術6	DTM	2年前期	68	4			○	○				○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽曲制作	2年前期	68	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術6	音楽制作	2年前期	34	2			○	○		○		
	○		音楽基礎知識2	音楽理論	2年前期	34	2			○	○		○		
合計					9科目	476単位時間 (28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ミュージッククリエイター専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		音楽制作技術2	副科レッスン	2年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		音楽制作技術3	REC (レコーディング) ・PT編集	2年後期	128	8			○	○				○
	○		音楽制作技術5	楽曲研究	2年後期	32	2			○	○				○
	○		音楽制作技術6	DTM	2年後期	64	4			○	○				○
	○		パフォーマンス技術1・2	楽曲制作	2年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術6	音楽制作	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		音楽基礎知識2	音楽理論	2年後期	32	2			○	○		○		
合計					9科目	448単位時間 (28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	平成11年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(音楽ビジネス専攻)	平成6年文部科学省告示第八十四号	—																			
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に付け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																
単位時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
160人の内数	1人	0人	1人	5人	6人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 激ロックエンタテインメント 他			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																		
■卒業生数 3 人 ■就職希望者数 2 人 ■就職率 2 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 67 % ■その他			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																				
(平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者4名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者4名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等			■中退率 0 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/promotion-management/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処（音楽メディア流通）石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会（平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月）

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ（平成31年4月予定）、サウンドクルー（令和元年5月予定）、村上音楽事務所（令和元年7月予定）、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント（令和元年7月予定）、音楽処（令和元年9月予定）、東芸エンタテインメント（令和元年11月予定）との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会（7月、12月、1月）

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に係りの深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOneを導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中)

URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科音楽ビジネス専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	業界マネジメント	1年前期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	レーベル運営	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		ライブ技術3・4	メディアMIX	1年前期	68	4			○	○			○	
	○		制作技術1	楽器概論	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		制作技術2	ローディー	1年前期	34	2			○	○		○		
	○		制作技術3	イベント企画	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術1	レーベル研究	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術2	パブリシティ制作	1年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術3・4	ライブ実習	1年前期	68	4			○	○		○	△	
合計					11科目	476単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科音楽ビジネス専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	業界マネジメント	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	レーベル運営	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		ライブ技術3・4	メディアMIX	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		制作技術1	楽器概論	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		制作技術2	ローディー	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		制作技術3	イベント企画	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		制作技術4	アーティストプロモーション	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術1	レーベル研究	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術2	パブリシティ制作	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術3・4	ライブ実習	1年後期	64	4			○	○		○	△	
合計					11科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科音楽ビジネス専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時事ジャーナル	キャリア演習	2年前期	34	2	△		○	○		○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	レーベル研究	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		ライブ技術3・4	ライブ実習	2年前期	68	4			○	○		○	△	
	○		制作技術1・2	メディアMIX	2年前期	68	4			○	○			○	
	○		制作技術3	PA実習	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		制作技術4	動画編集	2年前期	34	2			○	○		○		
	○		メディア技術1	パブリシティ制作	2年前期	34	2			○	○		○		
	○		メディア技術2	業界マネジメント	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術3	イベント企画	2年前期	34	2			○	○			○	
	○		メディア技術4	アーティストプロモーション	2年前期	34	2			○	○		○	△	
合計						11科目	476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科音楽ビジネス専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時事ジャーナル	メディア制作	2年後期	32	2	△		○	○		○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	レーベル研究	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		ライブ技術3・4	ライブ実習	2年後期	64	4			○	○		○	△	
	○		制作技術1・2	メディアMIX	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		制作技術3	PA実習	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		制作技術4	動画編集	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		メディア技術1	パブリシティ制作	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		メディア技術2	業界マネジメント	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術3	イベント企画	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術4	アーティストプロモーション	2年後期	32	2			○	○		○	△	
合計					11科目		448単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(総合音楽専攻)	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																			
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に付け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1848時間	132時間	0時間	1716時間	0時間	0時間																
単位時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
160人の内数	24人	0人	2人	5人	7人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) クリプトン・フューチャー・メディア 他			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																		
■卒業生数 7人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																				
■就職希望者数 3人			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																				
■就職率 100%			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																				
■卒業者に占める就職者の割合 43%			③その他(民間検定等)																				
■その他			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																				
(平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成30年5月1日時点において、在学者19名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者15名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等			■中退率 21%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/total-music/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
斉藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	スリーバック・エンタテインメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年7月、FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏と情報交換を目的とした、音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等に係る勉強会を開催した。また、平成30年9月には、音楽処（音楽メディア流通）石川千鶴子社長を交えて、北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷や音楽業界の変化等について音響学科教職員の勉強会を開催した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会（平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月）

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

シグマコミュニケーションズ（平成31年4月予定）、サウンドクルー（令和元年5月予定）、村上音楽事務所（令和元年7月予定）、ランタイム・ミュージック・エンタテインメント（令和元年7月予定）、音楽処（令和元年9月予定）、東芸エンタテインメント（令和元年11月予定）との音楽業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会（7月、12月、1月）

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に係りの深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOneを導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中)

URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科総合音楽専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エンタテインメントビジネス論	音楽史 I	1年前期	34	2	○			○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	34	2	△		○	○			○	△	○
	○		ライブ技術1・2	選択実習	1年前期	68	4			○	○			○		
	○		制作技術1	選択実習	1年前期	34	2			○	○				○	
	○		制作技術2	選択実習	1年前期	34	2			○	○				○	
	○		メディア技術1	選択授業	1年前期	34	2	○		○	○			○		
	○		メディア技術2	選択授業	1年前期	34	2			○	○				○	
	○		作品制作1・2	選択実習	1年前期	68	4			○	○			○		
	○		音楽技術1・2	選択実習	1年前期	68	4			○	○				○	
	○		音楽技術3・4	選択実習	1年前期	68	4			○	○				○	
合計					10科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科総合音楽専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンタテインメントビジネス論	音楽史 I	1年前期	32	2	○			○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年前期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	選択実習	1年前期	64	4			○	○		○		
	○		制作技術1	選択実習	1年前期	32	2			○	○			○	
	○		制作技術2	選択実習	1年前期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術1	選択授業	1年前期	32	2	○		○	○		○		
	○		メディア技術2	選択授業	1年前期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作1・2	選択実習	1年前期	64	4			○	○		○		
	○		音楽技術1・2	選択実習	1年前期	64	4			○	○			○	
	○		音楽技術3・4	選択実習	1年前期	64	4			○	○			○	
合計					10科目	448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科総合音楽専攻) 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			時事ジャーナル	楽曲研究	2年前期	34	2	○			○			○		
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年前期	34	2	△			○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	選択実習	2年前期	68	4				○	○		○		
	○		制作技術1・2	選択実習	2年前期	68	4				○	○		○		
	○		メディア技術1	選択実習	2年前期	34	2				○	○				○
	○		メディア技術2	選択実習	2年前期	34	2	○			○	○		△		○
	○		作品制作1	選択授業	2年前期	34	2				○	○		○		
	○		作品制作2	選択実習	2年前期	34	2				○	○		○		
	○		音楽技術1・2	選択実習	2年前期	68	4				○	○				○
	○		演奏技術1・2	選択実習	2年前期	68	4				○	○				○
合計					10科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	前期
	2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科総合音楽専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時事ジャーナル	楽曲研究	2年後期	32	2	○			○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		ライブ技術1・2	選択実習	2年後期	64	4			○	○		○		
	○		制作技術1・2	選択実習	2年後期	64	4			○	○		○		
	○		メディア技術1	選択実習	2年後期	32	2			○	○			○	
	○		メディア技術2	選択実習	2年後期	32	2	○		○	○		△	○	
	○		作品制作1	選択授業	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		作品制作2	選択実習	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		音楽技術1・2	選択実習	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		演奏技術1・2	選択実習	2年後期	64	4			○	○			○	
合計						10科目									448単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2学年の学期区分	後期
	2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	平成11年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化教養専門課程	ゲームクリエイティブ学科 ゲームデザイナー専攻		平成6年文部科学省告示第八十四号	-																		
学科の目的	ゲーム開発業務の実際の現場で求められるスキルと対応力のある人材の育成より実践的なカリキュラムと充実した教育環境による授業内容を通じ人材の育成に取り組む																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	2年 昼間							1848時間	264時間	0時間	1584時間	0時間	0時間										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人の内数	15人	0人	3人	4人	7人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDEの段階別絶対評価																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費の完納																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) ゲーム関連企業 他		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定	③	1人	1人								
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																		
	CGクリエイター検定	③		1人	1人																		
■卒業生数 5人 ■就職希望者数 3人 ■就職者数 2人 ■就職率 : 67% ■卒業者に占める就職者の割合 : 40%		※別欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■その他 (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成30年5月1日時点において、在学者16名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者16名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等		■中退率 0% ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/game/game-designer/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進路変更等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲームクリエイティブ学科教育内容

- ① 専攻毎の専攻実習と学科全専攻にまたがる共通講座
- ② 即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 業界向けの実践的な実習
- ④ 就職に対応したキャリア科目
- ⑤ 広い視野、経験を養う海外研修旅行

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「連携して協力することの大切さを教えてもらいたい。」「チーム力が大事であることを分かってもらいたい。」等、現場対応力の向上を学校に求める意見が多いため、「キャリアワーク」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義時間を増やしている。また、「作品制作」「卒業制作」授業において、デザイナー、プランナー、プログラマー各専攻が少人数のグループを編成し、共同制作を進める授業を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ(社会研修)や企業からの講師派遣による授業を通じ、「現場の実践力を兼ね備えた技術スキルの高い人材の育成」に取り組んで行く

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

業界で活躍するゲームクリエイター、ゲームデザイナーによる授業、「プランニング」「デザインワーク」「デジタルワーク」等を通して、業界において求められる人材育成を行っている。授業内で制作する作品や制作プロセスについても、業界視点で評価を行い、現場対応力の修得と向上に努めている。また、ジースタイル、ハ・ン・ド、QUATRO A といったオンラインゲーム企画開発企業による業界セミナーを通じて、現在のゲーム業界を知る機会を創出して継続的に学生のモチベーション向上を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	イー・ティー・シー エンターテイメント株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年5月に株式会社ジースタイル、同年7月に株式会社ジーン、同年10月に株式会社 マイティクラフト が、ゲームクリエイティブ学科の教職員を対象として、ゲーム業界に求められる人材と必要とされる技術やノウハウについて、講義を中心とした業界セミナーを開催した。意見交換を通じて収集した情報を、授業運営と学生指導に役立てることを目的としている。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会（平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月）

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

株式会社ユーロ・エイン（平成31年4月予定）、ソノトロア（令和元年9月予定）、スマワイト（令和元年10月予定）、株式会社ジーン（令和元年7月予定）、ゲームドウ（令和元年9月予定）、ナビオコンピュータ（令和元年10月予定）とのゲーム業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会（7月、12月、1月）

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

変化の著しいゲーム業界に対応する人材育成への取り組みに関する意見があり、外部より多くのゲーム会社を招いて新しい情報を常に学内に注入できるよう留意している。学生に対してこれからのゲーム業界が求める人材像についての情報提供ができるよう努めている。また、教職員とはゲーム業界全般の変化に関する意見交換等ができるよう勉強会を設定している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中)

https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームデザイナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	1 年前期	34	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアワーク I	企業研究等を行い、就職活動のための基礎知識を得る	1 年前期	34	2	○	△		○	○	○		
○			デジタルワーク A	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(1)	1 年前期	34	2	△		○	○			○	
○			デジタルワーク B	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(2)	1 年前期	34	2	△		○	○			○	
	○		デザインワーク	平面・空間構成を学び、グラフィックデザインの基礎を習得する	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		キャラクター	キャラクターデザイン実習等を通して、より実践的な作画技法を学ぶ	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		デッサン I	木炭デッサンを中心とした素描実習によって、描写力を身に付ける	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		3DCG I	3DCGの実習を通して、ゲームデザインの3D表現の基礎について学ぶ	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		作品制作 I	基礎的なレベルの作品制作実習(1)	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
合計					9科目			476 単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	前期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームデザイナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	1 年 後 期	32	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアワーク I	企業研究等を行い、就職活動のための基礎知識を得る	1 年 後 期	32	2	○	△		○	○	○		
○			デジタルワーク A	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(1)	1 年 後 期	32	2	△		○	○			○	
○			デジタルワーク B	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(2)	1 年 後 期	32	2	△		○	○			○	
	○		デザインワーク	平面・空間構成を学び、グラフィックデザインの基礎を習得する	1 年 後 期	64	4	△		○	○			○	
	○		キャラクター	キャラクターデザイン実習等を通して、より実践的な作画技法を学ぶ	1 年 後 期	64	4	△		○	○			○	
	○		デッサン I	木炭デッサンを中心とした素描実習によって、描写力を身に付ける	1 年 後 期	64	4	△		○	○		○		
	○		3DCG I	3DCGの実習を通して、ゲームデザインの3D表現の基礎について学ぶ	1 年 後 期	64	4	△		○	○			○	
	○		作品制作 I	基礎的なレベルの作品制作実習(1)	1 年 後 期	64	4	△		○	○		○		
合計				9科目						448 単位時間(28単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	後期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームデザイナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会実務	一般常識的な教養を学ぶ、または個別相談やクラス連絡等のホームルーム	2 年 前 期	34	2	○	△		○	○	○		
○			キャリアワークⅡ	企業研究等を行い、就職活動のための能力を高める	2 年 前 期	34	2	○	△		○	○	○		
	○		デッサンⅡ	デッサンなどを含めてデザインに関するいろいろな作品を制作する	2 年 前 期	68	4	△		○	○		○		
	○		3DCGⅡ	3DCG実習の学習を深化させ、作品制作を通して習熟度を上げてゆく	2 年 前 期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅱ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(2)	2 年 前 期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅲ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(3)	2 年 前 期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅳ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(4)	2 年 前 期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅴ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(5)	2 年 前 期	68	4	△		○	○		○		
			合計	8科目											476 単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定时数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	前期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームデザイナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会実務	一般常識的な教養を学ぶ、または個別相談やクラス連絡等のホームルーム	2 年 後 期	32	2	○	△		○	○	○		
○			キャリアワークⅡ	企業研究等を行い、就職活動のための能力を高める	2 年 後 期	32	2	○	△		○	○	○		
	○		卒業制作 (デッサンⅡ)	デッサンなどを含めてデザインに関するいろいろな作品を制作する	2 年 後 期	64	4	△			○	○	○		
	○		卒業制作 (3DCGⅡ)	3DCG実習の学習を深化させ、作品制作を通して習熟度を上げてゆく	2 年 後 期	64	4	△			○	○	○		
	○		卒業制作 (作品制作Ⅱ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(2)	2 年 後 期	64	4	△			○	○	○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅲ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(3)	2 年 後 期	64	4	△			○	○	○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅳ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(4)	2 年 後 期	64	4	△			○	○	○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅴ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(5)	2 年 後 期	64	4	△			○	○	○		
合計				8科目							448 単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	後期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化教養専門課程	ゲームクリエイティブ学科 ゲームプランナー専攻	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																						
学科の目的	ゲーム開発業務の実際の現場で求められるスキルと対応力のある人材の育成 より実践的なカリキュラムと充実した教育環境による授業内容を通じ人材の育成に取り組む																									
認定年月日	平成26年03月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2年	昼間	1848時間	264時間	0時間	1584時間	0時間																				
単位時間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人の内数	9人	0人	3人	4人	7人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDEの段階別絶対評価																					
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) ゲーム関連企業 他			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																					
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																					
■卒業生数 1 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																							
■就職希望者数 1 人			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																							
■就職者数 0 人			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																							
■就職率 : - %			③その他(民間検定等)																							
■卒業者に占める就職者の割合 : - %			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																							
■その他																										
(平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)																										
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 平成30年5月1日時点において、在学者11名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者10名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等			■中退率 9 %																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 給付者なし																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/game/game-planner/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲームクリエイティブ学科教育内容

- ① 専攻毎の専攻実習と学科全専攻にまたがる共通講座
- ② 即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 業界向けの実践的な実習
- ④ 就職に対応したキャリア科目
- ⑤ 広い視野、経験を養う海外研修旅行

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月22日 17:40～18:30
- 第2回 平成26年2月5日 18:00～19:00
- 第3回 平成26年9月18日 15:00～16:00
- 第4回 平成27年3月30日 15:00～16:00
- 第5回 平成27年10月2日 15:00～16:00
- 第6回 平成28年9月20日 15:00～16:00
- 第7回 平成29年10月2日 15:00～16:15
- 第8回 平成30年2月16日 15:00～16:30
- 第9回 平成30年9月21日 15:00～16:30
- 第10回 平成31年2月22日 14:00～15:30
- 第11回 令和元年9月19日 14:00～15:30
- 第12回 令和2年2月21日 開催予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「連携して協力することの大切さを教えてもらいたい。」「チーム力が大事であることを分かってもらいたい。」等、現場対応力の向上を学校に求める意見が多いため、「キャリアワーク」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義時間を増やしている。また、「作品制作」「卒業制作」授業において、デザイナー、プランナー、プログラマー各専攻が少人数のグループを編成し、共同制作を進める授業を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ(社会研修)や企業からの講師派遣による授業を通じ、「現場の実践力を兼ね備えた技術スキルの高い人材の育成」に取り組んで行く

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

業界で活躍するゲームクリエイター、ゲームデザイナーによる授業、「プランニング」「デザインワーク」「デジタルワーク」等を通して、業界において求められる人材育成を行っている。授業内で制作する作品や制作プロセスについても、業界視点で評価を行い、現場対応力の修得と向上に努めている。また、ジースタイル、ハ・ン・ド、QUATRO A といったオンラインゲーム企画開発企業による業界セミナーを通じて、現在のゲーム業界を知る機会を創出して継続的に学生のモチベーション向上を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ゲームワークⅠ	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	イー・ティー・シー エンターテイメント株式会社
作品制作Ⅴ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(5)	イー・ティー・シー エンターテイメント株式会社
卒業制作	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(5)	イー・ティー・シー エンターテイメント株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年5月に株式会社ジースタイル、同年7月に株式会社ジーン、同年10月に株式会社 マイティクラフト が、ゲームクリエイティブ学科の教職員を対象として、ゲーム業界に求められる人材と必要とされる技術やノウハウについて、講義を中心とした業界セミナーを開催した。意見交換を通じて収集した情報を、授業運営と学生指導に役立てることを目的としている。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

株式会社ニューロン・エイジ(平成31年4月予定)、クアトロA(令和元年5月予定)、メタサイト(令和元年6月予定)、株式会社ジーン(令和元年7月予定)、ゲームドゥ(令和元年9月予定)、ナビオコンピュータ(令和元年10月予定)とのゲーム業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

変化の著しいゲーム業界に対応する人材育成への取り組みに関する意見があり、外部より多くのゲーム会社を招いて新しい情報を常に学内に注入できるよう留意している。学生に対してこれからのゲーム業界が求める人材像についての情報提供ができるよう努めている。また、教職員とはゲーム業界全般の変化に関する意見交換等ができるよう勉強会を設定している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中)

URL: https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL: <https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプランナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	1 年前期	34	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアワーク I	企業研究等を行い、就職活動のための基礎知識を得る	1 年前期	34	2	○	△		○	○	○		
○			デジタルワーク A	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(1)	1 年前期	34	2	△		○	○			○	
○			デジタルワーク B	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(2)	1 年前期	34	2	△		○	○			○	
	○		アルゴリズム	プログラムを組むためのアルゴリズムについて学ぶ	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		プログラム基礎	プログラミングの基礎について学習する	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		シナリオ I	ゲームシナリオの基礎について学習する	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		プランニング I	ゲームプランニングについて、初歩的な手法を学ぶ	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		作品制作 I	基礎的なレベルの作品制作実習(1)	1 年前期	68	4	△		○	○			○	
合計				9科目						476 単位時間(28単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	前期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプランナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	1年後期	32	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアワーク I	企業研究等を行い、就職活動のための基礎知識を得る	1年後期	32	2	○	△		○	○	○		
○			デジタルワーク A	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(1)	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			デジタルワーク B	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(2)	1年後期	32	2	△		○	○			○	
	○		アルゴリズム	プログラムを組むためのアルゴリズムについて学ぶ	1年後期	64	4	△		○	○			○	
	○		プログラム基礎	プログラミングの基礎について学習する	1年後期	64	4	△		○	○		○		
	○		シナリオ I	ゲームシナリオの基礎について学習する	1年後期	64	4	△		○	○			○	
	○		プランニング I	ゲームプランニングについて、初歩的な手法を学ぶ	1年後期	64	4	△		○	○			○	
	○		作品制作 I	基礎的なレベルの作品制作実習(1)	1年後期	64	4	△		○	○		○		
合計					9科目		448 単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	後期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプランナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会実務	一般常識的な教養を学ぶ、または個別相談やクラス連絡等のホームルーム	2年前期	34	2	○	△		○	○	○		
○			キャリアワークⅡ	企業研究等を行い、就職活動のための能力を高める	2年前期	34	2	○	△		○	○	○		
	○		シナリオⅡ	シナリオについて、より実践的に学習する	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		プランニングⅡ	ゲームの企画や仕様設計について、より実践的に学習する	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅱ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(2)	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅲ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(3)	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅳ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(4)	2年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		作品制作Ⅴ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(5)	2年前期	68	4	△		○	○		○		○
合計				8科目											476 単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	前期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプランナー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会実務	一般常識的な教養を学ぶ、または個別相談やクラス連絡等のホームルーム	2年後期	32	2	○	△		○	○	○		
○			キャリアワークⅡ	企業研究等を行い、就職活動のための能力を高める	2年後期	32	2	○	△		○	○	○		
	○		卒業制作 (シナリオⅡ)	シナリオについて、より実践的に学習する	2年後期	64	4	△		○	○		○		
	○		卒業制作 (プランニングⅡ)	ゲームの企画や仕様設計について、より実践的に学習する	2年後期	64	4	△		○	○		○		
	○		卒業制作 (作品制作Ⅱ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(2)	2年後期	64	4	△		○	○		○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅲ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(3)	2年後期	64	4	△		○	○		○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅳ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(4)	2年後期	64	4	△		○	○			○	
○			卒業制作 (作品制作Ⅴ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(5)	2年後期	64	4	△		○	○		○		○
合計				8科目											448 単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	後期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化教養専門課程	ゲームクリエイティブ学科 ゲームプログラマー専攻	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																				
学科の目的	ゲーム開発業務の実際の現場で求められるスキルと対応力のある人材の育成 より実践的なカリキュラムと充実した教育環境による授業内容を通じ人材の育成に取り組む																							
認定年月日	平成26年 3月 31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																		
2年	昼間	1848時間	264時間	0時間	1584時間	0時間																		
単位時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人の内数	23人	0人	3人	4人	7人																			
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDEの段階別絶対評価																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費の完納																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) サイクロンゼロ、ナビオコンピュータ、ゲーム業界 他			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数														
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																					
■卒業生数 6人 ■就職希望者数 6人 ■就職率 83% ■卒業者に占める就職者の割合 83%			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■その他			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
(平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																								
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成30年5月1日時点において、在学者16名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者16名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更			■中退率 0%																				
■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																							
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/game/game-programmer/																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 - ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲームクリエイティブ学科教育内容

- ① 専攻毎の専攻実習と学科全専攻にまたがる共通講座
- ② 即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 業界向けの実践的な実習
- ④ 就職に対応したキャリア科目
- ⑤ 広い視野、経験を養う海外研修旅行

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月22日 17:40～18:30
- 第2回 平成26年2月5日 18:00～19:00
- 第3回 平成26年9月18日 15:00～16:00
- 第4回 平成27年3月30日 15:00～16:00
- 第5回 平成27年10月2日 15:00～16:00
- 第6回 平成28年9月20日 15:00～16:00
- 第7回 平成29年10月2日 15:00～16:15
- 第8回 平成30年2月16日 15:00～16:30
- 第9回 平成30年9月21日 15:00～16:30
- 第10回 平成31年2月22日 14:00～15:30
- 第11回 令和元年9月19日 14:00～15:30
- 第12回 令和2年2月21日 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「連携して協力することの大切さを教えてもらいたい。」「チーム力が大事であることを分かってもらいたい。」等、現場対応力の向上を学校に求める意見が多いため、「キャリアワーク」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義時間を増やしている。また、「作品制作」「卒業制作」授業において、デザイナー、プランナー、プログラマー各専攻が少人数のグループを編成し、共同制作を進める授業を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ(社会研修)や企業からの講師派遣による授業を通じ、「現場の実践力を兼ね備えた技術スキルの高い人材の育成」に取り組んで行く

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

業界で活躍するゲームクリエイター、ゲームデザイナーによる授業、「プランニング」「デザインワーク」「デジタルワーク」等を通して、業界において求められる人材育成を行っている。授業内で制作する作品や制作プロセスについても、業界視点で評価を行い、現場対応力の修得と向上に努めている。また、ジースタイル、ハ・ンド、QUATRO A といったオンラインゲーム企画開発企業による業界セミナーを通じて、現在のゲーム業界を知る機会を創出して継続的に学生のモチベーション向上を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ゲームワークⅠ	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	イー・ティー・シー エンターテイメント株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年5月に株式会社ジースタイル、同年7月に株式会社ジーン、同年10月に株式会社 マイティクラフト が、ゲームクリエイティブ学科の教職員を対象として、ゲーム業界に求められる人材と必要とされる技術やノウハウについて、講義を中心とした業界セミナーを開催した。意見交換を通じて収集した情報を、授業運営と学生指導に役立てることを目的としている。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

株式会社ニューロン・エイジ(平成31年4月予定)、クアトロA(令和元年5月予定)、メタサイト(令和元年6月予定)、株式会社ジーン(令和元年7月予定)、ゲームドゥ(令和元年9月予定)、ナビオコンピュータ(令和元年10月予定)とのゲーム業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

変化の著しいゲーム業界に対応する人材育成への取り組みに関する意見があり、外部より多くのゲーム会社を招いて新しい情報を常に学内に注入できるよう留意している。学生に対してこれからのゲーム業界が求める人材像についての情報提供ができるよう努めている。また、教職員とはゲーム業界全般の変化に関する意見交換等ができるよう勉強会を設定している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIデザイナー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和1年9月中)

URL:https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法:ホームページ URL:<https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプログラマー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	1年前期	34	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアワーク I	企業研究等を行い、就職活動のための基礎知識を得る	1年前期	34	2	○	△		○	○	○		
○			デジタルワーク A	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(1)	1年前期	34	2	△		○	○			○	
○			デジタルワーク B	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(2)	1年前期	34	2	△		○	○			○	
	○		アルゴリズム	プログラムを組むためのアルゴリズムについて学ぶ	1年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		プログラム基礎	プログラミングの基礎について学習する	1年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		プログラム I	ゲーム制作におけるプログラミングの実際について学ぶ	1年前期	68	4	△		○	○			○	
	○		C言語 I	C言語の基礎的な概念について学ぶ	1年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作 I	基礎的なレベルの作品制作実習(1)	1年前期	68	4	△		○	○		○		
合計					9科目	476 単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	前期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプログラマー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゲームワーク I	ゲームの基礎概念、企画立案、仕様などの概論的な知識を学ぶ	1年後期	32	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアワーク I	企業研究等を行い、就職活動のための基礎知識を得る	1年後期	32	2	○	△		○	○	○		
○			デジタルワーク A	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(1)	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			デジタルワーク B	(DigitalTools) Photoshop, Illustrator の知識と操作方法を学ぶ(2)	1年後期	32	2	△		○	○			○	
	○		アルゴリズム	プログラムを組むためのアルゴリズムについて学ぶ	1年後期	64	4	△		○	○			○	
	○		プログラム基礎	プログラミングの基礎について学習する	1年後期	64	4	△		○	○		○		
	○		プログラム I	ゲーム制作におけるプログラミングの実際について学ぶ	1年後期	64	4	△		○	○			○	
	○		C言語 I	C言語の基礎的な概念について学ぶ	1年後期	64	4	△		○	○		○		
	○		作品制作 I	基礎的なレベルの作品制作実習(1)	1年後期	64	4	△		○	○		○		
合計					9科目	448 単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	後期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプログラマー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会実務	一般常識的な教養を学ぶ、または個別相談やクラス連絡等のホームルーム	2年前期	34	2	○	△		○	○	○		
○			キャリアワークⅡ	企業研究等を行い、就職活動のための能力を高める	2年前期	34	2	○	△		○	○	○		
	○		プログラムⅡ	プログラムの学習をより高度な領域まで発展させ、理解を深める	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		C言語Ⅱ	C言語を使ったゲームプログラミングについてより深く学習する	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅱ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(2)	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅲ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(3)	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅳ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(4)	2年前期	68	4	△		○	○		○		
	○		作品制作Ⅴ	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(5)	2年前期	68	4	△		○	○			○	
合計															8科目 476 単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	前期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ゲームクリエイティブ学科) ゲームプログラマー専攻 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会実務	一般常識的な教養を学ぶ、または個別相談やクラス連絡等のホームルーム	2 年後 期	32	2	○	△		○	○	○		
○			キャリアワークⅡ	企業研究等を行い、就職活動のための能力を高める	2 年後 期	32	2	○	△		○	○	○		
	○		卒業制作 (プログラムⅡ)	プログラムの学習をより高度な領域まで発展させ、理解を深める	2 年後 期	64	4	△		○	○		○		
	○		卒業制作 (C言語Ⅱ)	C言語を使ったゲームプログラミングについてより深く学習する	2 年後 期	64	4	△		○	○		○		
	○		卒業制作 (作品制作Ⅱ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする作品制作実習(2)	2 年後 期	64	4	△		○	○		○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅲ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(3)	2 年後 期	64	4	△		○	○		○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅳ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(4)	2 年後 期	64	4	△		○	○		○		
○			卒業制作 (作品制作Ⅴ)	ゲーム作品や就職用作品を中心とする卒業制作実習(5)	2 年後 期	64	4	△		○	○		○	○	
			合計												8科目 448 単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
●卒業要件＝規定時数を満たす授業出席及び規定単位数を満たす単位取得	1学年の学期区分	後期
●履修方法＝授業出席及び課題提出または試験	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
専門学校札幌ビジュアルアート	平成11年01月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2822																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
文化・教養	文化教養専門課程	写真学科	平成6年文部科学省告示第八十四号	-																	
学科の目的	写真業界で求められるスキルと対応力のある人材の育成 より実践的なカリキュラムと充実した教育環境による授業内容を通じ人材の育成に取り組む。																				
認定年月日	平成26年 3月 31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2年	昼間	1848時間	200時間	198時間	1450時間	0時間	0時間														
単位時間																					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
40人	26人	1人	3人	3人	6人																
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、課題、授業態度等 ABCDE 5段階評価																	
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																	
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 六本木スタジオ、イイノ・メディアプロ他		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																	
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フォトマスター検定</td> <td>③</td> <td>14名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	フォトマスター検定	③	14名	11名						
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																		
フォトマスター検定	③	14名	11名																		
■卒業生数		12	人																		
■就職希望者数		10	人																		
■就職率		100	%																		
■卒業者に占める就職者の割合		83	%																		
■その他																					
(平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																					
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成30年4月1日時点において、在学者21名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者20名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等		■中退率	5%																	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入		■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科のホームページURL	https://www.visualarts.ac.jp/top/photograph/																				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 - ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- ③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

写真学科教育内容

- ① 即戦力を養成する実践的なカリキュラム
- ② 企画から撮影、編集まで個人で制作できる能力の育成
上記の教育内容を企業等の連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に生かし、改善をはかって行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月19日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	14:00～15:30
第11回	令和元年9月19日	14:00～15:30
第12回	令和2年2月21日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

制作実習または卒業制作における実習環境(機材設備・教室)について、一層拡充していく等の提案を今後活用してゆく予定。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

講師派遣による授業を通じ、「現場の実践力を兼ね備えた、社会人の育成」に取り組んでいく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実際の写真業界で活躍するフォトグラファー(企業から派遣)による授業、「スタジオ応用実習」「ロケーション応用実習」を通して、業界において求められる人材育成を行っている。また、授業内で制作する作品や授業に取り組み姿勢についても、業界視点で評価を行い、現場対応力の修得と向上に努めている。また、六本木スタジオ、代官山スタジオ、スタジオ恵比寿等スタッフによる特別授業を通じて、「今の日本の写真業界」について生で知る機会を継続的に設けて、学生のモチベーション向上を図ると努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動画制作 I	一眼レフを使った動画撮影の撮影方法から動画編集について学ぶ。	ニューファンクション合同会社
デジタル効果	1年後期動画編集の基本を踏まえ、応用的な動画編集、Adobe社AfterEffectを使ってのエフェクト効果などを学ぶ。	ニューファンクション合同会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年5月に六本木スタジオ、同年6月に代官山スタジオ、スタジオ恵比寿が、写真学科の教職員を対象として、写真業界に求められる人材と必要とされる技術やノウハウについて、講義を中心とした業界セミナーを開催した。また、ミラーレスカメラの最新技術とその動向について、SONYの技術指導者による勉強会も開催し、授業運営と学生指導に役立っている。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(平成30.7月、平成30.12月、平成31.1月)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

六本木スタジオ(令和元年5月予定)、セプテーニアドクリエイティブ(令和元年6月予定)、代官山スタジオ(令和元年6月予定)、スタジオ恵比寿(令和元年6月予定)、石栗写真館(令和元年9月予定)との写真業界全般に関する意見交換を目的とした勉強会を計画している。収集した情報は、授業運営と学生指導に活用する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職に関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

写真業界の現状と専門就職率に関する質問があり、クリエイターとしての写真業界の捉え、授業内容も写真のみならず、映像を含めたクリエイター育成のためのカリキュラムにシフトさせた。写真に関する技術のみならず、動画編集スキルの習得等、メディア全般を扱う授業へと大きく変容させている。また、業界専門就職率をより向上させることを目的として、写真業界企業による学内説明会を8社開催(平成29年4月から12月において)している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIデザイナー	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年9月中)

URL:https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ URL:<https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程写真学科) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ロケーション基礎実習	屋外撮影の基本実習。(撮影の基本から質感描写を考えてのロケーション実習)	1年前期	136	8			○	△	○	○		
○			スタジオ基礎実習	スタジオ撮影の基本実習。(撮影セッティングからライティングの考え方)	1年前期	136	8			○	○		○		
○			写真概論	カメラの仕組みや写真に関する基本的知識を学ぶ。	1年前期	34	2	○			○		○		
○			写真史 I	写真の発明から近代写真まで、海外の写真の歴史を学ぶ。	1年前期	34	2	○			○		○		
○			Illustrator 基礎	Adobe社Photoshopの基本、使用方法～写真を使ってのデザイン制作	1年前期	34	2			○	○		○		
○			DTP	写真データの意味、画像処理方法からPhotoshopのプラグインであるCameraRaw、Adobe社Lightroom基本操作と写真データの作成	1年前期	34	2			○	○		○		
○			Photoshop 基礎 I	Adobe社Photoshopの基本、使用方法～写真画像のレタチャワークを学ぶ	1年前期	68	4			○	○		○		
			合計			7 科目				476単位時間(28		単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
規定単位数の取得・規定の出席時数・規定の学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程写真学科) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			写真史Ⅱ	前期の写真史Ⅰ以降の海外の写真の歴史を学ぶ。	1 年 後 期	32	2	○			○		○		
○			PhotoshopⅡ	前期のPhotoshopⅠの基本を踏まえ、より応用的なAdobe社製Photoshopの活用法、操作方法、画像処理・写真レタッチを学ぶ。	1 年 後 期	64	4		○	△	○		○		
○			動画制作Ⅰ	一眼レフを使った動画撮影の撮影方法から動画編集について学ぶ。	1 年 後 期	64	4		△	○	○	△	○		○
○			検定対策	①フォトマスター検定対策。(フォトマスター検定を視野に入れての写真概論) ②その他、フォトショップ検定・ビジネス能力検定などの検定対策。	1 年 後 期	32	2	○			○		○		
○			ロケーション 応用実習	被写体の特徴・テーマ性を考えて撮影を進めていくロケーション撮影実習。	1 年 後 期	96	6		△	○	△	○		○	
○			就職演習Ⅰ	就職活動に向けて、履歴書・志望動機の書き方から面接・プレゼンテーション等の就職試験対策。	2 年 前 期	32	2	△	○		○		○		
○			スタジオ応用 実習	スタジオ制作実習。1年時の基礎を踏まえ(就職ポートフォリオ用などの)作品制作を行う。	1 年 後 期	##	8		△	○	○			○	
合計				7 科目											448単位時間(28 単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
規定単位数の取得・規定の出席時数・規定の学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程写真学科) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			制作演習	①スタジオワークを中心とする撮影実習。 ②ロケーションワークを中心とする撮影実習。 ③就職用作品ファイルなど専門講師による制作実習	2年前期	##	12		△	○	○	○		○	
○			就職演習	就職活動に向けて、履歴書・志望動機の書き方から面接・プレゼンテーション等の就職試験対策。	2年前期	34	2	△	○		○		○		
○			写真史Ⅲ	日本の写真家を中心に創生期から近代の写真までの日本の写真の歴史を学び、自身の写真表現、これからの写真表現について研究する。	2年前期	34	2	○			○		○		
○			文章表現	作文・論文・作品プレゼンテーションなど文章の書き方を学ぶ。	2年前期	34	2	△	○		○			○	
○			デジタル効果	1年後期動画編集の基本を踏まえ、応用的な動画編集、Adobe社AfterEffectを使ってのエフェクト効果などを学ぶ。	2年前期	34	2		△	○	○	△	○		○
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら媒体のありかたを考える	2年前期	34	2	○			○		○		
○			写真技術	モノクロフィルム現像や大型(4×5)カメラなどデジタル写真以外(アナログ・フィルム)の写真技術、写真制作方法を学ぶ。	2年前期	68	4		△	○	○	△	○		
○			web制作(HTML)	HTMLの基礎知識及びweb(作品ホームページの作成)	2年前期	34	2		○		○		○		
合計				科目											476単位時間(28 単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
規定単位数の取得・規定の出席時数・規定の学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程写真学科) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	企画から展示までを行う、2年間の集大成となる作品制作実習。	2年後期	##	28			○	○	○	○		
合計						1	科目	448単位時間(28	単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
規定単位数の取得・規定の出席時数・規定の学費の完納	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。